

埼玉慈恵病院 埼玉手外科マイクロサージャリー研究所

当施設は前身の埼玉手外科研究所より所長の福本医師と副所長の小平医師が 2019 年より埼玉慈恵病院に移転し、あらたに埼玉手外科マイクロサージャリー研究所として立ち上げた施設です。2021 年に手外科専用の手術室、外来、リハビリ、検査室、マイクロサージャリートレーニング室を有する新棟が完成しました。手外科専用の手術室があるため緊急手術にも対応しやすい環境ですので、緊急の治療が必要な患者さんの受け入れを積極的に行っております。2019 年より継続的に手術件数を増やしてきており、2022 年度には 1000 件を超える見込みですが、年間 2000 件を目標にしています。

2023 年現在、手外科専門医 4 名のスタッフ（形成外科医 3 名、整形外科医 1 名）と手外科フェロー 1 名（整形外科医）の体制です。当施設の特徴は形成外科と整形外科の手外科専門医がいるところであり、フェローの先生は形成外科と整形外科のどちらの分野も学びながら診療できることです。手外科専門医になるには形成外科と整形外科の知識・技術が必要とされますが、このような体制の施設は全国の手外科研修施設でも 10 施設ほどです。また、当院では福本医師の専門分野である先天異常の症例も経験出来ることも特色です。

フェローの先生は基本的には形成外科または整形外科の専門医取得後を条件とし、1 年の研修を目安としておりますが長期または短期での研修も可能です。研修期間は主治医として積極的に治療に関わってもらっています。これまでのフェローの先生方は整形外科医 1 名（1 年研修）、形成外科医 2 名（1 年半研修、3 年研修）の 3 名ですが、変性疾患をはじめとして、肘関節から手指までの骨折、腱損傷や、軟部組織損傷に対するマイクロサージャリー手術などを各々の経験に応じて専門医の指導のもと治療を行ってきました。形成外科の先生で肘関節や手関節の骨折などを経験することはあまりないでしょうし、整形外科の先生は施設の体制によってはマイクロサージャリーを要する緊急手術を行う経験が中々得られないこともあると思いますが、当施設ではバランスの取れた症例の経験が可能です。

また、週 2 回リハビリスタッフとカンファレンスを行っており、治療方針や術前計画、術中所見からの後療法を確認しています。理学所見と画像・生理機能検査から得られた診断のもとに手術のみならず後療法を含め、一貫して適切な治療が行える様に議論しております。学術的には抄読会を行い最新の知見を得ると共に、学会・論文発表も積極的に行っております。2022 年からフィリピンから整形外科医が短期研修にきており、2023 年度にも 3 名研修予定ですが、彼らと英語でディスカッションすることで私達の勉強にもなっております。フェローということで金銭的な面に関して気になると思いますが、当施設では病院の職員としての給与や交通費を保証致します。質問などありましたら当施設のホームページの手外科研修の欄より福本医師の連絡先がありますのでお問合せください。また、フェローの先生の研修体験記も載っておりますので参考にしてみてください。

岡田恭彰 記